

Sienna's Watching - シーナズ・ウォッチング Packaging in Small! “パッケージング、スモール!”

こんにちは、シーナです。以前、「大きなパッケージ」というテーマで特集したことがありました。今回はその反対、「小さなパッケージ研究～ガラスびん」をテーマに取り上げます。

Life style changing, and package changing. I can find many “very small” bottles/cans of Sake, wine, Soyocyu and beer in the market. They can be found especailly in convenience stores, the most growing retailer in Japan. “180 ml” is a traditional volumetric unit (called “1 Gou”), and it has been regarded as a minimum standard bottle for long years. Nowadays, however, I can find many of 100-150 ml Ginjyo Sake bottles. They are not “miniature bottle”, but for daily consuming use. It seems, many people do not want so much quantity, but want high quality with reasonably inexpensive price tag. Same way in Europe, only 1-2 decade ago, people took a lot of cheap table wine every day. Nowadays, many people prefer quality wine, but less quantity, and not everyday. “Packaging small” is a key, in the shrinking alcoholic beverage industry world wide.
(text : Sienna K. Emiri / シーナ K. エミリ 喜多産業・企画開発 G)

Life style changing, and package changing,.....

illustration:sienna, may 03

むかしは、
・大きい方がお得
・決めたブランドを愛用

今とき、
・良いものを少しだけ、
・いろいろなブランドをトライしたい
・小さい方が無駄がない
(70年代はまだめぐる、、、ガモ?)

大家族
買い物はスーパー
お得な大型容器
コンビニで毎日ちょっとずつ買う
核家族、シングルライフ
お酒は180? もっと小さくておいしいよ!
デパ地下ホテイチ
自動車はフィットヤヴェイツ
ワンちゃんだつてチワワがよい(どうする、ウルウル)

大型犬が人気だった
お米を買うのは20kg袋です。
その昔は醤油の2リットルがあった(そうだ)

価値観の変化、時代はめぐる、、、



コンビニで見つけた小さなパッケージ

清酒3種は135mlが2点と100ml。
ワイン180ml。どれも一回で飲み切る商品設定。
醤油、ソース、マヨネーズは100ml、60ml、50g。10回分はある感じ。
コカ・コーラは「たくさんは飲めない人の飲みきり」サイズ。
ジャム、タバスコ、オリーブオイルはこんなに小さくても2-3回分ある。すべてガラスびん入り。
カップヌードルミニはコンビニの「マスト・アイテム」。ちょっとだけ昼ごはんや夜食に最適。
アポロチョコ(5個セット)は大手コンビニ全制覇の人気アイテム。

180ml（一合）のお酒のパッケージ

清酒では盃付きの容器が根強い感あり。
カップびんは 1.1 倍、1.5 倍サイズに相当量が移行。
酒販免許自由化をにらみ 100 円ショップねらいの企画もあるよう。
(上段左の 4 本は当社のびん。梅酒、ワイン、清酒、ガス入り清酒)

K2 Reference;
Various glass bottle shapes, 180ml
(ご参考資料) 180ml の商品企画のための樽形状検討資料

180ml の商品サンプル (その 1)



180ml の商品サンプル (その 2)



この写真の商品は様々なびん形状検討のために集めたもので、当社びん / キャンプを採入しているものほか、
当社が採入していないもの、輸入の商品、内容物がお酒ではないびんなども含まれています。
picture 02/07/16 Kita sangyo Co., Ltd.
(暫定版) 180ml の商品企画のための樽形状検討資料 ed.03 / 020719 / E.H. Mac

K2 Reference; (暫定)
Various glass bottle shapes, under 170ml
(ご参考資料) 170ml 以下の商品企画のための樽形状検討資料



picture 02/07/16 Kita sangyo Co., Ltd.
(暫定版) 170ml 以下の商品企画のための樽形状検討資料 ed.03 / 020719 / E.H. Mac

170ml 以下のびん入り商品。このカテゴリーに注目!

長年「一合 (180ml)」がお酒のミニマム容量でしたが、
100-150ml の製品がずいぶん増えました。ウイスキー類では「ミニチュアボトル」の位置付けですが、清酒の場合には 1 回飲みきりの「実用容器」という位置付けです。
ウイスキーでは 100ml 未満がありますが、清酒では 100ml が下限。やはり、ほろ酔い最低量は純アルコールで 15-17ml 位は必要、という事が。これをアルコール度数 12-15% の清酒で換算すると 100-150ml になるし、度数約 40% のウイスキーにすれば、40-50ml もあり、という計算ですね。

シーナの私的分析

お酒小型容器に関するマーケット・カテゴリーごとの私的分析です。

カテゴリー 1: 「女性ターゲット!」

なんとと言っても、お酒の小型容器は女性に受け入れられやすい、ですね。最近、雑誌で女性が商品企画・開発をしているお酒メーカーの紹介をよく見かけます。酒質の企画・開発と合わせて、パッケージ企画も大事! だと思います。特に 170ml 未満の容器がねらい目では? フランスでも、故郷イタリアでも、働く女性がレストランで昼食をとる時は、グラスワイン 1 杯 (±

120ml) のみ、というのが増えました。残念ながら「食事の時はノンアルコール (ミネラルウォーター)」派も増えたけど「お酒は飲みたい、でもちょっと」という女性心理は先進国共通のスタイルではないでしょうか?

カテゴリー 2: 「品質の良いものを少しだけ、しかも納得価格 + お手ごろ価格で」

清酒に回帰する重要セグメントである 30 歳代から 40 歳代の女性はこの傾向が強い。また男性も 30 歳代まではこの考えが強いのではないのでしょうか。フランス・イタリアでもホンの一世代前、マンマの時代には「安いテーブルワイ

ンを毎日ガブガブのむ」のがあたり前だったのに、いつの間にか「クオリティーワインをボトルで楽しむ、それも時々ね」になってしまいました。

カテゴリー 3: 「高濃度アルコール飲料の裾野開発」、カテゴリー 4: 「父の日、バレンタイン、、、イベント企画」、カテゴリー 5: 「コンビニやお土産ショップ」、カテゴリー 6: 「居酒屋ターゲット」、カテゴリー 7、、、以下省略ですが、「Think small packaging」は、アルコール飲料ですますます重要になると思います。

(Text: Sienna K. Emiri)

以下、営業部からの「小さなパッケージ」の PR です。

150ml の新型びん「アート 150」

を計画中です。既存型のアート 300 を半分にかットしたイメージです。適合キャップはマキシキャップまたはコルク栓。色は浅葱 (アサギ) で吹製予定です。営業担当にご照会ください。

NEW!!



アート 150

アート 300